

第 4 号

1988年 3 月

岡山県古代吉備文化財センター

西江遺跡（哲西町）出土特殊器台文様



百間川沢田遺跡 水田遺構

百間川沢田遺跡の発掘調査

岡山市街地を流れる旭川の東岸には、その肥沃な沖積平野を生産基盤として営まれた、多くの遺跡が存在する。その中で百間川遺跡群は、江戸時代に築造された人工河川、百間川（旭川放水路）の河床下に広がる、縄文時代後期から中世に至る一大複合遺跡である。当遺跡群の発

掘調査は、建設省の百間川改修工事に伴い、昭和52年度から本格的に行なわれている。今回は、昭和62年12月から翌年3月末まで実施した、百間川沢田遺跡左岸調査区（P～S区）の発掘調査（約1,800㎡）について報告する。

百間川沢田遺跡は、国道2号線百間川橋の下

流、岡山市沢田に所在する。本調査区はその沢田遺跡の東北部にあたり、東南方向に緩やかに傾斜する微高地の高所と縁辺部に位置する。微高地の東西両端は低位部に連なり、さらに調査区の中ほどには、東南方向に展開する谷状地形の谷頭がある。調査では、弥生時代後期末の水田と水路の他、弥生時代前期末から中期初頭の土壘墓群や中期中葉の大溝、池状遺構、さらに弥生時代中期から中世まで各時期の水路等を検出した。その結果、当調査区は、弥生時代から古墳時代まで、灌漑用排水路の流路として断続的に機能した地区であったことが明らかになった。

さて、弥生時代後期末の遺溝は、洪水砂によって一時に埋没した水田と水路である。このことから、その掘開時期に遅速の差はあるものの、後期末の段階では同時に存在していたことがわ

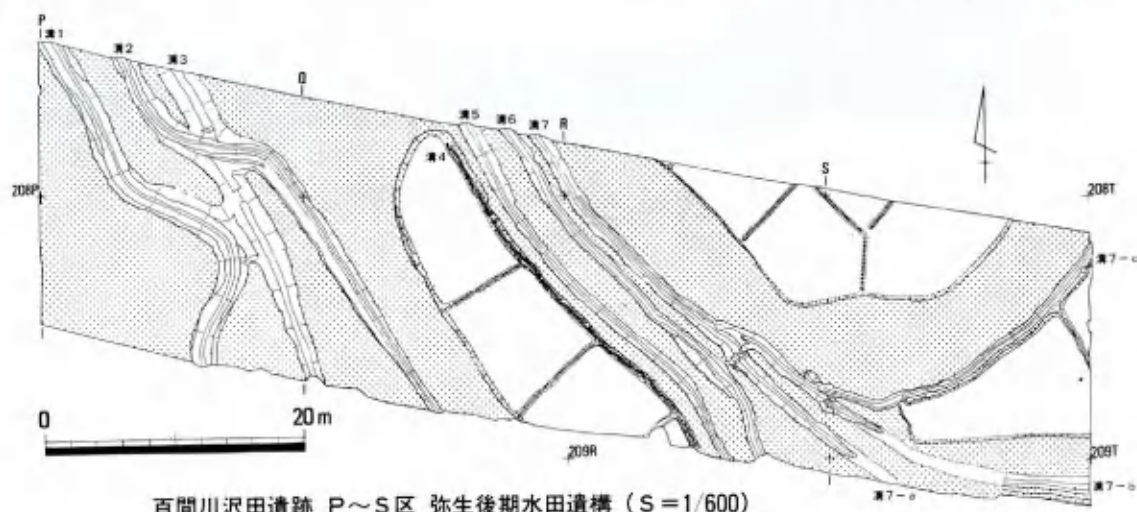
かる。以下、それらの検出状況について具体的な説明を加えたい。

水田は、調査内において、西側の微高地と中央の微高地、さらに東南端の「島状高まり」遺構に挟まれた部位に展開する。西側と中央の微高地の間に位置する狭長な水田は、旧谷状地形を掘削した弥生時代中期中葉の池状遺構埋没後、その窪地と旧谷状地形を利用、開田したものである。取水は、溝5からの懸け流しによったと考えられる。水田面のレベルは、海拔251~253cmを測る。次に、中央の微高地と東南端の「島状高まり」遺構に挟まれた水田は、溝7-cからの取水口をもち、東方に展開する水田である。この水田面のレベルは、海拔232~234cmを測る。さらに、中央の微高地の北側に広がる水田は、微高地の比較的高位部を開田したものと確認された。水田面のレベルは、海拔260~263cmを測る。

灌漑用排水路には、西側の微高地高所を北西から南東方向に流走する溝1~3と、中央の微高地上を同方向に流走する溝5~7がある。これらの水路の下層には、弥生時代後期前半の水路がほぼ同一流路で存在し、溝1~3については、さらにその下層に弥生時代中期中葉の大溝があった。つまり弥生時代後期末の水路は、下層水路埋没後に同位置を踏襲して掘削されたものである。また、溝1~3は、後期末に複雑な様相を呈するものとして注目される。すなわち、



P区 溝1~3合流地点の等高線



百間川沢田遺跡 P~S区 弥生後期水田遺構 (S=1/600)



R区 溝7-b・7-c分岐点

溝1と3は、馬の背状の高まりを介して接し、溝2と3は互いに交叉する形で検出されたのである。この馬の背状の高まりの機能としては、分水・水量調整等が推定される。また、中央の微高地上では、溝7が興味深い。溝7は、本調査区内でa～c3条に分岐し、それぞれ分岐点に分水機能を担う施設の存在が推定されるのである。中でも、溝7-aから7-bに分岐する地点の7-a側には、長さ1m、幅0.4m、高さ0.1mの土手状の粘土盛り上げが残存していた。また、他の分岐点においても、僅かであるが、土盛りが看取された。さらに、溝7では、3箇所に分岐点を経る毎に分岐溝の溝底レベルが5～10cm高くなり、粘土盛り上げ遺構（土盛の小堰）によって、低位な水路から、より高位な水路・水田への給水を目的とした微妙な水量調整機能をもつことが明らかになった。

次に、今回検出した弥生時代後期末の水田と水路が、沢田遺跡の中でどのように展開していくかみていきたい。まず、溝1と3は、西側微高地上を平行して南流する。これらは、微高地高所を貫流すること、幅2～3m、深さ0.5～0.8mの規模から幹線用排水路と考えられる。溝2は、溝5～7と同規模で幅1～1.5m、深さ0.5m～0.8mを測り、その下手の水田と畝に引水する。溝5と6は、中央の微高地上をさらに流下している。これら中央の微高地上の水路は、この地区の開田以前か、あるいは開田初期から存在し、後の順次の開田で両側から狭められ、取り残されたと考えられる。溝7については、先述したように今調査区内で3条に分岐し、下手ではさらに分岐しながら水田に導かれている。以上の4条の溝は、支線用排水路と考えられるが、溝5と6については、そのあり方から準幹線用排水路と考えられるものである。

以上のように、百間川沢田遺跡においては、弥生時代後期末の水田と灌漑用排水路の広範な拡がりとその密接な関係が明らかにされつつある。また、今回は触れないが、弥生時代全時期を通じての水田や灌漑用排水路のあり方を語る資料も多い。今後は、水田と灌漑用排水路に同様の様相を示す百間川原尾島遺跡とともに、当該地の、弥生時代の水田経営の展開を考える上で貴重な資料となるものとして期待される。

(高田恭一郎)

センターの年間事業(昭和62年度)

昭和62年度に実施した調査第一課関係の調査の概要は次のとおりである。

旭川放水路改修に伴う百間川遺跡群(岡山市)の調査は昭和52年以来第11年次調査となる。今年度は調査員3名、報告書2名の人員配置で、昭和57年以降とだえていた報告書作成を再開した。発掘調査は百間川原尾島遺跡(丸田調査区)、沢田遺跡(高縄手A・B調査区)、同沢田遺跡(足洗調査区)の低水路部を調査した。注目される遺構としては別記した水路と水田の他に高縄手A調査区においては、弥生時代前期の大溝(幅3~4m、深さ1.8m)が検出され、過年度調査で予測された弥生時代前期の環濠であることがおおよそ明らかにされた。



百間川沢田遺跡 縄文後期土器

足守川河川改修に伴う発掘調査は昨年に引き続き矢部南向遺跡の調査を実施していた。調査は昨年同様遺構密度は高く20数軒の竪穴住居をはじめ、土壌等の遺構が検出された。特に注目されるものとしては弥生時代中期前半に遡る遺構(溝)が検出されたことをはじめ、同中期後



足守川矢部南向遺跡

半の大形建物1棟、同後期後半竪穴住居の床面下から小銅鐸の出土、中世末~近世初頭にかけての堀状溝及び柱穴群等がある。

国庫補助事業は邑久町所在の「熊山田散布地ほか」の確認調査1件である。これは土地改良総合整備事業計画地に実施したもので、邑久町千町平野を囲む丘陵縁辺を8地点にわたって調査した。中でも平野部の北に位置する真徳貝塚B地点では、丘陵に最も近い水田の中のトレンチにおいて、表土下約2.5mの深い部位において縄文時代後期以前と考えられる貝層を確認した。平野部南側の円張東貝塚、船原梶ヶ端貝塚、鳥博遺跡の各地点においては弥生時代前期、中期および中世の包含層の所在が認められたが、遺構は確認できなかった。おそらく調査地の南に張り出している丘陵、あるいは浅い谷斜面が弥生時代前期からの住居地と推察される。



真徳貝塚B遺跡

緊急対応事業では、津島江道遺跡(岡山市)は前号で概要を記した。荒神風呂遺跡ならびに同古墳(落合町)では、弥生時代の井戸状遺構や時期不明の柱穴列を調査した他、径約15mの円墳を確認した。これらは継続事業として次年度に残される。忍山城山城跡(岡山市)は、深さ4mある薬研堀の掘切りを伴う小規模な連郭式の出城を調査した。市町村指導では、念仏塚遺跡(勝央町)の弥生時代後期の住居跡1と掘立柱建物跡等を確認した。二反田B遺跡(鏡野町)では圃場整備事業に伴う水路掘削部の調査で古墳時代前期の住居跡等を部分的に調査した。

(河本 清)

本年度に新設された調査第二課は、主として山陽自動車道の建設に先だつ発掘調査に従事し、合せて中国横断道に伴ってほぼ用地買収の完了した、川上村内にある各遺跡の範囲確認調査にあたった。まず山陽自動車道関連の諸遺跡について、南から順次、北上しながらその概要を記そうと思う。前年にひき続き発掘を実施した倉敷市西坂の菅生小学校裏山遺跡ではこれまでの成果に加え、250以上の柱穴とともに4棟分の掘立柱建物を検出して、奈良～平安時代における臨海性の公的施設のあり方をさらに鮮明にさせた。また当初から注目されていた朝鮮系土器ないし初期須恵器、青・白磁など5世紀以降の古代日朝交流史に欠かせない資料を一般に増加させた点も付記しなければならない。

倉敷市二子の二子14号墳については、所報前号をもってやや詳細に報じたが、その後、移築保存のための基礎資料を積みあげる目的で閉塞石の除去や墳丘の部分的解体を試み、その過程で、北西の墳裾に組まれた配石土壙1、および封土中の北東部で中世土器多数からなる副次的な祭祀跡を検出するなど新たな知見を加えた。

また倉敷市矢部に所在する矢部古墳群Bでは、古墳群をふくむその縁辺部で、弥生時代中期後半の竪穴住居址2軒や掘立柱建物1棟とともに、当該期の土器、石鏃などを検出した。

同所の矢部大坑遺跡においては、おそらく弥生時代中期後半と思われる流路、井戸址のほか、中世期の建物址2、および磐座祭祀にかかわる石塔、泥塔の出土をみた。

重複遺跡である矢部奥田遺跡については、あ

らかじめ縄文時代中期の貝塚の大部分を現状保存区域としたが、貝塚の肩口のみ脚橋と競合するのでやむなく発掘調査したところ、ヤマトシジミを主体として若干のハイガイ、カキを含む稀れにみる純貝層とわかり、堆積状態の良好な一部を剥ぎ取り保存して、展示に供するよう処置した。縄文土器についても中津式をやや遡る新形式の設定が可能である。その他、初めて出くわして手を焼いた遺構に、粘土採掘穴がある。採土の一単位はどうも径数mの円弧状を呈するものの、それが連弧状に伸び広がる遺構で、おそらく古墳時代初頭のころ粘土を採掘した跡と思われる。特殊器台形土器のためにか、はたまた埴輪づくりの土を採ったのか、興味のつきないところである。なお、これらの遺構の上に中世の掘立柱建物や土壙が残されていた。

矢部堀越遺跡は、意外に保存良好な集落遺跡と判明。弥生時代中期後半および古墳時代の竪穴住居址23軒のほか、掘立柱建物7軒が発見されたばかりでなく、特に注目を集めた遺構として、大形の特殊器台形埴輪片多数を床に敷きつめた箱式石棺がある。一見その文様は都月型と思われたが、復原の結果、蕨手文が体部一周に8単位めぐる箸中山型に近似することがわかり、はしなくも当時の吉備と大和との関連を煮つめる、新資料を提供する結果となった。他に、石蓋土壙や壺棺、さらに大破した横穴式石室、古道および数条の溝なども見つかっている。

岡山市津寺に所在する津寺散布地Aは、弥生時代末葉（下田所式期）から古墳時代初頭（亀川上層式期）に属する5基の墳墓または方墳と



矢部奥田遺跡 縄文中期貝塚



前池内3号墳出土人骨

断定。一辺は5～12mでいずれも比較的保存がよく、4号墳には舶載の内行花文鏡片と管玉、また2号墳には鉄剣1、3号墳には剣、鉞、刀子、鉄鏃などが副葬されていた。

同地内の前池内(黒住山)古墳他は、弥生時代から中世にわたる集落や墳墓などの重複遺跡。

まず、弥生時代中期の注目すべき遺構として巨大な柱穴6本で1間×2間の建物となる、倉庫址をあげなければならない。これらはすべて低丘陵上にあって合計4軒も検出されている。ついで古墳時代前半期の方墳4基が封土をとどめず基底のみ検出、うち1基の周溝から黒斑のある家形や盾形の形象埴輪が見つかり、話題となった。横穴式石室を内部主体とする円墳は、大形の前池内1号墳に加え、新たに小形の同2号墳が発見されたことも成果の一つである。

さらに、同所に隣接した道路用地外の西方一角が、墓地移転地に決定したため事業調査を試みた結果、かなり大規模な円墳と判明し、同3号墳と命名した。内部の横穴式石室の床面には、二つの木棺痕跡をとどめ、その中にあるいはその周辺からも、保存良好な人骨が10体程度残されていた。今後、年齢や性別の検討を通して一墳に埋葬された人的構成を割り出すことの可能な、またとない好資料を得たといえよう。

津寺散布地B・Cは、調査対象地がしだいに広



津寺散布地B 焼失住居址

がり、縄文時代後期から中世におよぶ遺物が認められ、谷状地形の所では無数の溝が検出されたし、掘立柱建物数軒も確認できた。南よりの拡張区においては、焼け落ちた炭化材が保存良好な状態で看取できた弥生時代中期末葉(仁伍

式期)の竪穴住居址1とともに、同時期の土壘などが注目を集めた。北よりの拡張区からは、コ字形の同溝を伴う5世紀後半の小墳や、新たに横穴式石室1基も見つかり、完掘した。

甬崎天神遺跡は当初、弥生墳丘墓が主たる内容をなす遺跡と予測されていたにもかかわらず、案に相違して、埴輪棺3基を主体とする小方墳をふくめて前半期古墳4基と、横穴式石室1基、さらに6つの郭面をもつ連郭式山城、天神山城がその全容を現わして、強い関心をよんだ。また北側の低地部、甬崎第II調査区では、古墳時代から中世に至るまでの溝約30本が検出され、とりわけ丘陵部に近い河道の中層位において多量の特異壺形土器が出土した事実は特筆に値する。

他に、遺跡の範囲確認調査として、足守川を



甬崎天神遺跡 第II調査区出土特殊壺形土器

渡った北西方向の高塚地区、岡山インターの予定地である同市富原奥山大池遺跡で、ボーリングまたはトレンチ調査を行い所期の目的を果たした。

そして中国横断道関連では、川上村内の渡世原、井手ノ上、中山西、城山東、下郷原和田、下郷原田代Na1、同Na2など、各地点における遺物・遺構の有無あるいは遺跡範囲の予測を立てる資料の収集につとめた。わけても始良火山灰層の直下から、黒曜石、めのう、安山岩などの石器または石片の出土した地点が3箇所もあり、次年度以降の本格調査によって、遺跡の単位や広がらないしは遺跡相互間の諸関係が判明するであろう点に、関心が集まっている。

(葛原克人)

普及啓発事業

埋蔵文化財行政の充実を図る事業の一環として、第2回「埋蔵文化財専門職員研修会」を11月24日、当センターにて開催しました。

当研修会は県内の行政機関において埋蔵文化財の調査にたずさわる専門職員の資質の一層の向上を図ることを目的とし、2年に1回実施しています。

今年度は岡山大学教授近藤義郎氏による「なぜ前方後円墳か」、文化庁文化財保護部記念物課課長小林孝男氏による「埋蔵文化財保護の現状と課題」の講演を実施しました。岡山県文化課をはじめ、岡山市、倉敷市、津山市、笠岡市、総社市、備前市、御津町、邑久町、長船町、落合町、当センター専門職員、延53名が参加しました。



近藤義郎氏講演

近藤氏は、まず古墳とは何かを「定義」する難しさを、従来の古墳研究者の「定義」を例に問題点を紹介され、その混乱の原因には前方後円墳をはじめ円墳、方墳、双円墳等をことごとく古墳という名称の中に包括して扱ったことを指摘されました。

そして、古墳とは前方後円墳を代表かつ典型として、その成立および変遷の過程で、関連して出現した墳墓をすべて包括する概念であると規定できるという趣旨をのべられ、前方後円墳の出現によって、古墳時代あるいは前方後円墳時代と呼称される新しい時代が始まるという考えを示されました。

さらに、前方後円墳の成立期から廃絶期までを原始社会の最後の段階とし、階級関係が部族的関係を越えるものとして成長しつつあった時代であることを強調され、その前後に介在した事実を自身の発掘調査、踏査等の研究体験に鑑み、迫力かつ明快に話していただきました。

また、韓国の前方後円墳についての質問には実見していないので一つの見透しとして、断定はできないがと前置きされ、韓国では前方後円墳が発生するはずがないと考えていること、また長鼓山古墳については墳丘測量図を見るかぎりでは前方後円墳であろうという見解をのべた。



小林孝男氏講演

小林氏は、岡山県文化課課長時代の3年を回想され、まず昭和49年の転勤直後に対応された備前国分寺の発掘調査および国指定史跡に至る経緯。ついで、吉備路郷土館の建設ならびに開館準備等の苦労談。昭和51年からの百間川遺跡の発掘調査に至る地域の人達との会議、行政内での動向、また今日も発掘調査が継続していることへの驚き等も話されました。ほかに寒風古窯址群、鏡野町竹田遺跡の保存問題、久米町稼山開発関係、勝央町工業公園等の大規模な発掘調査にもふれられ、自身の考えで判断ができなかったもどかしさ等、当時の心境を語られました。全国的には高根原大谷1号墳、京都府芝ヶ原12号墳、群馬県黒井峯遺跡等々の保存問題の現状をとりあげ、残すか、残さないかの判断のむずかしさ、遺跡の価値プラス諸々の条件等々の当面している課題をのべられました。

岡山県古代吉備文化財センター発掘調査一覧表

(昭和62年度)

遺跡名	所在地	調査の原因	遺跡の内容	調査期間	面積(m ²)
① 熊山田散布地他	邑久郡邑久町	県営圍場整備	縄文時代の貝塚、弥生時代の集落跡。	11月25日～1月27日	600
② 津島遺跡関連	岡山市学南町	県道万成国富線建設	弥生時代～近世の水田遺構。	10月5日～10月30日	200
③ 忍山城出城跡	岡山市山上	一般県道岡山賀陽線改良工事	中世山城、郭、掘切、土塁が所在。	8月3日～10月22日	2,200
④ 足守川矢部南向遺跡	倉敷市矢部南向	足守川改修	弥生時代中期～中世の集落跡。	4月～3月	1,200
⑤ 猿渡古墳群	総社市新本	大原谷川荒廃砂防事業	古墳周溝。	12月7日～1月13日	100
⑥ 荒神風呂古墳他	真庭郡落合町西河内	県営工業団地	円墳、奈良時代の建物、弥生時代の塚。	10月5日～10月9日 2月8日～3月15日	824 2,400
⑦ 百間川沢田遺跡	岡山市沢田	百間川改修	縄文時代後期～中世の集落跡、弥生時代の水田。	4月～3月	3,740
⑧ 百間川原尾島遺跡	岡山市原尾島	"	弥生時代の水田。		210
⑨ 菅生小学校裏山遺跡	倉敷市西坂	山陽自動車道建設	古墳時代の祭祀場、奈良～平安時代の建物。	4月～9月	2,450
⑩ 二子14号墳	倉敷市二子	"	7世紀中頃の方墳。移築保存の調査。	4月20日～6月2日	600
⑪ 矢部古墳群B	倉敷市矢部	"	弥生時代中期後半の集落跡。	4月～7月	400
⑫ 矢部大墳遺跡	倉敷市矢部	"	弥生時代～中世の散布地。	4月6日～8月11日	1,200
⑬ 矢部奥田遺跡	倉敷市矢部	"	縄文時代中期の貝塚、古墳時代の粘土埴輪跡、中世に至る集落跡。	4月～1月6日	2,800
⑭ 矢部堰越遺跡	倉敷市矢部	"	弥生・古墳時代～中世の集落跡、弥生・古墳時代の墓地。	4月1日～11月25日	7,000
⑮ 津寺散布地A	岡山市津寺	"	前半期の古墳。	4月1日～9月25日	1,240
⑯ 前池内古墳群他	岡山市津寺	"	横穴式石室墳、弥生時代の集落跡。	5月～3月	6,450
⑰ 前池内3号墳他	岡山市津寺	"	横穴式石室墳。	12月3日～3月16日	675
⑱ 津寺散布地B・C	岡山市津寺	"	縄文時代後期包舎層、弥生時代～中世の集落跡。	4月～3月	29,250
⑲ 雨崎天神遺跡	岡山市津寺	"	縄文時代後期～中世における包舎層、弥生時代の墓、前期古墳(円筒埴輪棺、横穴式石室墳)、中世の集落跡。	4月1日～3月31日	11,520
⑳ 富原大池奥山遺跡	岡山市富原	"	自然地形(丘陵)。	2月1日～2月9日	300
㉑ 高塚遺跡	岡山市高塚	"	弥生時代～中世の集落跡。	1月11日～2月3日	124
㉒ 井手ノ上散布地他	真庭郡川上村	中国横断自動車道建設	土石器・縄文・弥生・古墳時代の集落跡。	9月1日～11月30日	983
㉓ 二反田B散布地	苫田郡鏡野町	団体営圍場整備	弥生時代～中世の集落跡。	11月16日～12月24日	390
㉔ 津島江道遺跡	岡山市津島	青年館建設	縄文時代～中世の集落跡、全面調査。	3月～8月	880
㉕ 念仏塚遺跡	勝田郡勝央町	工場用地造成	弥生時代の集落跡。	4月9日～4月11日	514
㉖ 小枝2号墳	赤磐郡吉井町	私有地の整備	陶棺(再埋葬)。	11月15日～11月18日	30
㉗ 岸本古墳群他	苫田郡鏡野町	一般国道179号線改良工事	自然地形(丘陵)。	11月17日～11月20日	140
㉘ 総社工業協組第二団地	総社市久代	機械金属工業団地造成	古墳、製鉄遺跡。	4月16日～5月20日	

編集・発行

岡山県古代吉備文化財センター

所在地 〒701-01
岡山市西花尻1325-3
電話 (0862)93-3211

●交通案内

- ・JR山陽本線庭瀬駅下車タクシー10分
- ・JR吉備線吉備津駅下車徒歩25分
- ・JR岡山駅下車岡電バス岡山駅前より
神道山行終点下車徒歩5分

